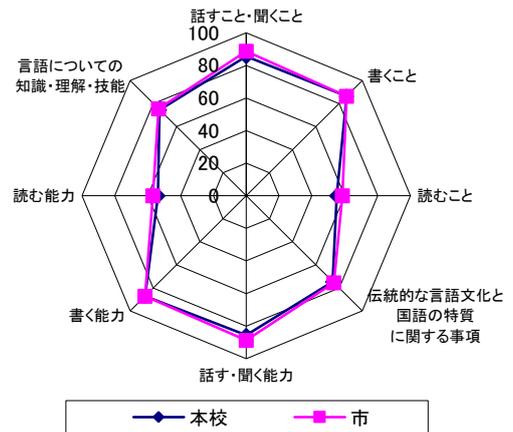


宇都宮市立宝木中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	85.5	88.7	89.1
	書くこと	86.5	86.4	64.2
	読むこと	55.2	58.5	55.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	74.5	75.5	72.0
観点別	話す・聞く能力	85.5	88.7	89.1
	書く能力	87.1	87.1	66.7
	読む能力	53.8	56.9	55.0
	言語についての知識・理解・技能	74.6	75.6	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均を3.2ポイント下回っている。 ●「話の内容を正確に聞き取ることができる」と「聞き手に理解してもらうための話し方の工夫」において市平均より4ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと・聞くこと」の単元において以下のような工夫を図る。「話すこと」では、スピーチの授業において、物事やものを説明する内容を扱う・その際聞き手に理解してもらうポイントや根拠を盛り込み、内容構成を指導する。 ・「聞く」では、聞き取りテストの回数を2回から4回に増やし、話を聞くポイントを確認する機会を定期的に設け、指導する。
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均を0.1ポイント上回っている。 ○自分の考えを根拠を明確にして書くことができ、「考えを明確にして書く」「根拠を明確にする」において市平均を約2ポイント上回っている。 ●「指定された文字数で書くことができる」が、0.7ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感想を書かせたり、自分の考えをまとめさせる機会を増やした成果が出ているので、授業でも継続して上記の機会を増やしていく。 ・字数不足になることは、書くスピードや文章の構成力が低いことを意味する。3段落構成と4段落構成の文章を書かせる機会を増やし、慣れさせていく。また、自分の考えを相手に伝えるために効果的な文章の書き方を指導していく。
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均を3.3ポイント下回っている。 ●「文章の展開に即して内容をとらえる」「登場人物の心情をとらえる」ことが市平均よりも6～7ポイント下回っている。 ○「文章の内容をとらえた上で、それを別の事例にあてはめることができる」が市平均よりも2ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の要旨をとらえることが苦手なので、100字程度の文章内容を50字程度に削り、さらに25字程度に削っていく授業内容を行う。 ・要約する際の、キーワードの選び方や、内容を省略し要約するポイントを指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<ul style="list-style-type: none"> ・市の平均を1ポイント下回っている。 ●助動詞についての理解が市平均より9ポイント下回っている。 ○「用言の活用」においては、市平均より10ポイント、「類義語・対義語について」は6ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の課題は、ほぼ毎日行うことが習慣化されてきた。語彙力も身に付きつつあるので、今後も継続していく。さらに定期テスト前、長期休業明けに漢字テストを実施するなど、確認と復習の時間にあてる。 ・古典文章理解を促すため、単元学習後、短編古文を取り入れ、内容をとらえるためのポイントを指導する時間を設ける。

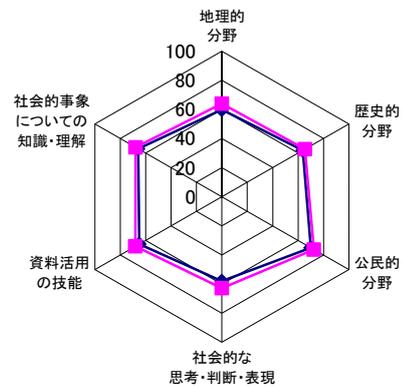
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	59.9	64.0	50.9
	歴史的分野	63.6	65.3	57.1
	公民的分野	70.0	72.4	67.0
観点別	社会的な思考・判断・表現	58.0	62.9	52.3
	資料活用技能	65.1	68.2	58.1
	社会的な事象についての知識・理解	65.9	68.0	59.9

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
 (社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



● 本校 (Blue line with diamond markers)
 ■ 市 (Pink line with square markers)

★指導の工夫と改善

○ 良好な状況が見られるもの ● 課題が見られるもの

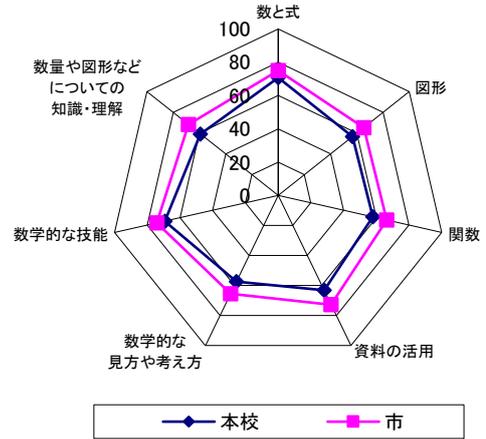
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	<p>地理的分野の平均正答率は、市の平均を4.1ポイント下回っている。 ○日本の姿については、各項目とも市の平均を0.4～3.2ポイントとやや下回るものの市の平均値に近い。 ●世界各地の人々の生活と環境に関する問いの、世界各地の気候について雨温図を判断する問題に対し、市の平均正答率を13ポイントと大きく下回っている。 ●世界の諸地域ヨーロッパ州における学習課題を解決するにあたり、複数の資料をもとに考察する問題に対し、10ポイント市の平均正答率より低い。</p>	<p>・1年生の内容である世界の諸地域の内容について、学力の定着がやや低い。繰り返し家庭学習を行う習慣を身に付けさせ、スパイラル的な学習をする時間の確保を定着させる指導を行う。 ・複数の資料を読み取り、考えを導き出す問題が35.1%と低いので、資料の読み取りの活動時間をさらに充実させ確保していく。</p>
歴史的分野	<p>歴史的分野の平均正答率は、市の平均を1.7ポイント下回っている。 ○近世の日本の豊臣秀吉による兵農分離に関する資料を選択する問題について、市の平均正答率より3.6ポイント上回っており、7.5ポイント全国の平均正答率より上回り、十分理解している。 ●キリスト教伝来に関する宗教改革について判断する問いに対して、本校の正答率は38.6%で市の平均よりも6.3ポイント下回っている。また、奈良時代までの日本の天平文化の特色を複数の資料をもとに考察し、その内容を表現する問題においても、47.8%と市の平均正答率より6.2ポイント下回っている。</p>	<p>・1年生の内容である古代までの日本の内容について、学力の定着がやや低い。重要語句の定着を今後とも継続して指導していくとともに、家庭学習を行う習慣を身に付けさせ、スパイラル的な学習で、復習する時間を確保させる指導を行う。 ・複数の資料を読み取り、考察し表現記述する問題が市の平均から6.2ポイント低いことから、資料の読み取りの時間をさらに確保するとともに、日常生活の中でも自分の言葉で考えを記述したり、発表したりする活動を積極的に取り入れる。</p>
公民的分野	<p>公民的分野の平均正答率は、市の平均を2.4ポイント下回っている。 ○人間尊重と日本国憲法の内容で、フランス人権宣言の主な内容と憲法改正の手続きについての理解に対する正答率は、2.4ポイント・3.2ポイントと市の平均を2項目とも上回っている。 ●同じ人間尊重と日本国憲法の内容でも、公共の福祉について資料を参考にして、自分の言葉で表現することができる問題は、20.9ポイント下回っている。</p>	<p>・前時の復習を毎時間、授業の最初に取り入れ、基礎的な知識や重要語句の定着を図ってきた成果が現れたものとそうでないものがあったので、次年度は単元ごとに振り返りのテストなどを行い、定着の徹底を図るようにする。 ・複数の資料を読み取り、考察し表現記述する問題が市の平均から20.9ポイントと大幅に低いことから、資料の読み取りの時間をさらに確保するとともに、日常生活の中でも自分の言葉で考えを記述したり、発表したりする活動を積極的に取り入れる。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	70.8	75.0	70.3
	図形	56.7	65.2	63.4
	関数	57.9	66.4	51.5
	資料の活用	63.2	72.8	63.9
観点別	数学的な見方や考え方	57.4	65.5	55.1
	数学的な技能	69.3	74.2	67.5
	数量や図形などについての知識・理解	59.3	68.3	64.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

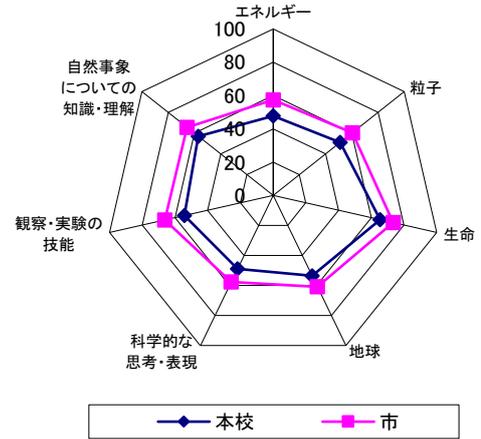
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<p>平均正答率が市平均と比べ、-4. 2ポイントであった。</p> <p>○乗法公式を使って、式を展開できる、という問いに対し、市の平均を3. 1ポイント上回った。</p> <p>●問題を解決するための方程式を作ることができる、という問いに対しては市の平均を-11. 4ポイントと大きく下回っている。</p>	<p>・1年生の学習内容である、文字と式の中の「数量の表し方」の復習を繰り返し行う。また、立式の手順を考え、その手順を考察する活動を取り入れる。</p> <p>・分数を含む計算の機会を増やし、立式できた式の解まで求められるように、計算方法に慣れさせていく必要があるため、授業内で計算小テストを実施していく。</p>
図形	<p>平均正答率が市平均と比べ、-8. 5ポイントであった。</p> <p>○線分の中点を、垂直二等分線を作図することによって作図することができる、という問いに対しては市の平均を0. 2ポイントとわずかながら上回った。</p> <p>●相似な図形の性質から、辺の長さを求めることができる、という問いに対しては市の平均を-12. 3ポイントと大きく下回っている。</p>	<p>・証明における、仮定と結論についての理解が不十分であるため、問題文で仮定と結論を見つけ出してから、証明を行うように指導していく。</p> <p>・相似な図形をとらえられるように、コンピューター等を用いて、図形の対応を見せていくようにする。また、相似な図形の性質から対応する辺の長さを求められる技能を高められるように、繰り返し演習を行っていく。</p>
関数	<p>平均正答率が市平均と比べ、-8. 5ポイントであった。</p> <p>○比例の関係にあるxとyの表を読み取り、yをxの式で表すことができる、という問いに対しては市の平均を2. 8ポイント上回った。</p> <p>●関数$y=ax^2$における変化の割合を求めることができる、という問いに対しては市の平均を-13. 3ポイントと大きく下回った。</p>	<p>・伴って変化する2つの数量が何かを確認する作業を通し、文章題から変化の仕方に気づき、式を立てる練習を行う。</p> <p>・2年生で学ぶ「変化の割合」等、関数の基礎となる事項の指導を重点的に行う。</p>
資料の活用	<p>平均正答率が市平均と比べ、-9. 6ポイントであった。</p> <p>○7個の玉から1個取り出すときの確率をもとめることができる、という問いに対しては8割近くの生徒が正答することができた。</p> <p>●中央値について理解しているという問いに対しては、市の平均を-14. 8ポイントと大きく下回った。</p>	<p>・頻繁に使用される言葉の学習を授業に多く取り入れる。また、資料から読み取った様子を自分の言葉で表現する活動を通し、思考力を育みたい。</p> <p>・確率では、条件が増えると正答率が低くなった。樹形図や表を書いて、「起こりうるすべての場合」を、もれや重なりなく書き出す方法を身に付けてさせていく。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	47.8	57.5	51.6
	粒子	51.1	60.3	53.0
	生命	65.4	73.4	67.9
	地球	53.5	60.9	57.4
観点別	科学的な思考・表現	48.9	57.7	51.5
	観察・実験の技能	54.3	66.2	58.2
	自然事象についての知識・理解	57.0	65.7	61.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

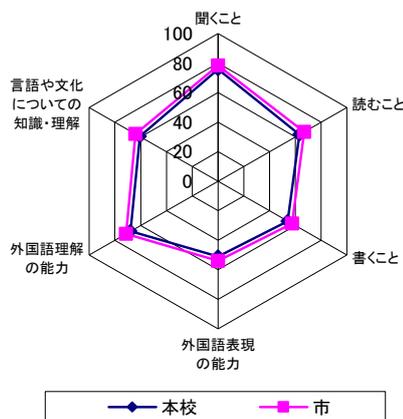
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>エネルギーの分野の平均正答率は、市の平均を9.7ポイント下回っている。</p> <p>●光(凸レンズの屈折)、仕事(仕事率の計算、仕事の原理)に関する出題では、ほとんどの項目で市の平均を大きく下回った。これは、物理現象における基本的な内容の理解が不足していた。</p>	<p>内容が難しく思われ、敬遠されがちな分野なので、身近な例や具体的に生活に関わっている事柄などを提示し、興味・関心を高める授業展開に努めていく。また、これからの授業の中に復習や確認テスト実施していく。</p>
粒子	<p>粒子の分野の平均正答率は、市の平均を9.2ポイント下回っている。</p> <p>●水の電気分解、電解質・電離に関する出題で、市平均を大きく下回った。いずれも知識中心の問題であり、問題文をよく読み取り、過去の知識と照らし合わせれば解答可能な問題であった。</p>	<p>誤答を確認してみると、二者選択的な問題の組み合わせや基本的な試薬の特徴や確認の仕方、そして3学年で学んだ電気分解やイオンの特徴、化学式、イオンを含めた反応式が整理されていない状態を感じた。正確に覚えて整理させる時間の確保とまとめプリントを実施し、確実に理解できるようにする。</p>
生命	<p>生命の分野の平均正答率は、市の平均を8.0ポイント下回っている。</p> <p>●光合成(燃焼との比較による発生気体の特徴)、進化の例、遺伝における形質の表し方の問題で市平均を大きく下回った。いずれの問題も基本的な知識がないと正解を出せない問題である。</p>	<p>光合成の基本の知識、遺伝の基本等は再確認することで確実に達成可能な内容である。他と関わりをもたせて問われたり、身近な事例等を挙げられると正解が出せなくなってしまう面が見られるので、授業において今後も科学的な根拠に基づく説明や他との関わりについても実験を通して解説する。</p>
地球	<p>地球の分野の平均正答率は、市の平均を7.4ポイント下回っている。</p> <p>●雲のでき方の実験においてその説明を上げる・下がる等組み合わせから選ぶ問題で、市平均を大きく下回った。</p>	<p>一問一答的な問題は、比較的よくできるが、問題文が長くなったり、他の関わりから考えさせられると正答率が下がる。今後は、授業の中でさまざまな現象の関わりを生徒自ら説明できるよう、思考するための時間の確保とわかりやすい解説を行っていく。</p>

宇都宮市立宝木中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	75.8	78.4	72.9
	読むこと	63.2	66.9	63.2
	書くこと	54.1	57.5	58.4
観点別	外国語表現の能力	51.0	54.0	51.1
	外国語理解の能力	67.9	71.3	65.9
	言語や文化についての知識・理解	60.6	64.0	68.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>「聞くこと」に関する平均正答率は、市正答率と比べて2.6ポイント下回った。</p> <p>○「英文の要点を聞き取ることができる。」問題では、3門中2問で校内正答率が80.0以上を達成した。</p> <p>●「対話の内容を聞き取り、資料をもとに英語で答えることができる。」問題では、校内正答率が51.8であった。</p>	<p>・普段の授業で、英語を話したり聞いたりする活動を増やし、英語に慣れさせる。</p> <p>・自分が発音できない(読めない)単語は、聞き取ることが難しいため、まずは単語や文章を正確に読めるように音読練習を繰り返し行なうことに重点を置いて指導していく。</p>
読むこと	<p>「読むこと」に関する平均正答率は、市正答率と比べて3.7ポイント下回った。</p> <p>○経験を表す現在完了の「語形・語法を理解できる。」問題では、校内正答率が71.1、で市正答率を4.0上回った。</p> <p>●「英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じることができる。」問題では、「英文と資料の情報・条件をもとに、相手の要望に対して適切に応じることができる。」問題で正答率が29.8であった。</p> <p>●やや長めの文章では、おおまかな内容は理解できるのだが、細かい内容まで理解することが困難な生徒が見られた。</p>	<p>・授業では、主語と動詞を見抜くことに重点を置いて指導してきた。また、その後段階として、5文型を匂わせて指導してきた。そのため、短めの文の内容や文構造は簡単に理解できる生徒が増えてきている。</p> <p>・長めの文を読む機会を増やすなどして、不足を補っていく。</p>
書くこと	<p>「書くこと」に関する平均正答率は、市正答率と比べて3.4ポイント下回った。</p> <p>●本領域における全11問の小問で正答率80.0を超えたのが1問であり、課題が大きい。</p> <p>●単語の並べ替えによる英作文の「where+to不定詞を含む文の英文を正しい語順で書くことができる。」問題で校内正答率が19.3だった。</p> <p>●「場面に応じて書く英作文」2問で正答率が33.3、28.9であった。</p>	<p>・「書くこと」の指導においても、主語と動詞が英語の構造の基本であることに重点を置いてきた。書きたいことはあるのに、スペルミスや単純な文法ミスをしてしまう生徒が多く、正答につながっていない。そのため、課題英作文や自由英作文などの添削を行なっていくことで、正確な英文を書けるようにしていきたい。</p> <p>・また、ほとんど書けていない生徒に対しては、簡単な例文を提示し、その単語を変えるなど、まねをさせて表現力をつけさせる。</p>

宇都宮市立宝木中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
◎思考力や判断力、表現力等を育成する言語活動の実践	(1)『分かる授業』の推進	「学校の授業がどの程度分かりますか」について ○1年生90.3%(昨年度より6.0ポイント高く、宇都宮市より4.7ポイント高い) ●2年生79.5%(昨年度より2.4ポイント低く、宇都宮市より1.7ポイント低い) ・3年生78.7%(昨年度と同じで、宇都宮市より3.0ポイント低い)
	・効果的なノートを活用	「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている」について ○1年生86.1%(昨年度より14.8ポイント高く、宇都宮市より5.5ポイント低い) ・2年生72.3%(昨年度より6.9ポイント高い、宇都宮市より5.3ポイント低い) ●3年生73.0%(昨年度より9.8ポイント低く、宇都宮市より4.6ポイント低い)
	・話し合い活動の積極的な導入	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」について ○1年生81.9%(昨年度より1.0ポイント高く、宇都宮市より0.5ポイント高い) ・2年生80.4%(昨年度より4.8ポイント高く、宇都宮市より0.1ポイント低い) ●3年生77.9%(昨年度より6.5ポイント低く、宇都宮市より4.0ポイント低い)
◎家庭学習ノートの活用など、家庭学習の一層の充実	(2) 家庭学習の習慣化	「学校から、家庭学習に必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」について ○1年生98.6%(昨年度より6.4ポイント高く、宇都宮市より3.9ポイント高い) ・2年生85.7%(昨年度より7.0ポイント高く、宇都宮市より7.2ポイント低い) ●3年生79.5%(昨年度より9.8ポイント低く、宇都宮市より11.2ポイント低い)
	・意欲や目的をもって取り組める宿題吟味、工夫	「宿題はきちんとやり、期限までに提出している」について ・1年生90.3%(昨年度より1.0ポイント低く、宇都宮市より6.1ポイント高い) ○2年生87.5%(昨年度より8.8ポイント高く、宇都宮市より3.5ポイント高い) ●3年生86.1%(昨年度より5.7ポイント低く、宇都宮市より1.9ポイント高い)

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
	・自主学習ノートの活用	<p>「授業で習ったことを、その日のうちに復習している」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生69.6%(昨年度より29.3ポイント高く、宇都宮市より16.6ポイント高い) ●2年生39.4%(昨年度より3.3ポイント低く、宇都宮市より3.1ポイント低い) ・3年生49.2%(昨年度より4.1ポイント高く、宇都宮市より0.8ポイント低い) <p>「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生72.2%(昨年度より14.8ポイント高く、宇都宮市より9.8ポイント高い) ○2年生56.3%(昨年度より16.9ポイント高く、宇都宮市より9.5ポイント高い) ●3年生59.8%(昨年度より14.5ポイント低く、宇都宮市より6.9ポイント低い) <p>「テストでまちがえた問題は、もう一度やり直している」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生84.0%(昨年度より3.1ポイント高く、宇都宮市より7.0ポイント高い) ●2年生61.6%(昨年度より5.5ポイント低く、宇都宮市より11.7ポイント低い) ・3年生73.8%(昨年度より12.3ポイント高く、宇都宮市より3.0ポイント低い)

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

- (1) 『わかる授業』のより一層の推進に向けて
- ① 「本時の目標（めあて、ねらい）」の確実な提示
 - ・毎時間の学習課題に即した目標（めあて、ねらい）の提示をさらに徹底させる。
 - ② 効果的なノートの活用
 - ・教科担任による板書の工夫や学習の定着を図った効果的なノートの活用法の指導をより一層充実させ、見本となるノートの例を学年の廊下に掲示して褒める指導を行う。
 - ③ 生徒の考えを引き出し、思考を深められる（主体的に考えられる）発問の工夫
 - ・教科担任による教材研究の充実と、「一人一授業」の公開方法をさらに工夫することで、教師間の学び合いを通じた授業力の向上を図る。
 - ④ 話し合い活動の積極的な導入
 - ・グループ活動や発表会など、各教科担任による話し合い活動をより一層充実させる。
 - ⑤ 「ふりかえり」活動の徹底
 - ・ワークシートやチェックテストなどを活用して、毎時間の学習課題に即した振り返りを確実に実施する。
- (2) 家庭学習のより一層の充実に向けて
- ① 学習に対する家庭の関心を高める工夫
 - ・三者懇談、教育相談、学校だより、学級だよりなどを活用した学習に関する情報提供を充実する。
 - ② 自主学習ノートの点検、アドバイス、賞賛
 - ・学級担任による、家庭学習の内容の点検と、コメントの記入等による助言や認める指導を充実する。
 - ③ 家庭学習の仕方を明示、説明
 - ・「家庭学習の手引き」を活用し、生徒には年度初めのオリエンテーションで、保護者には保護者会で家庭学習の仕方を説明する。
 - ・定期テスト前など、定期的に教科担任から復習方法の指導を行う。